

日月会 プレ・フォロ 第22回 議事録

日時 2015.09.19(Sat.)	時間 16:15-20:00	場所 酒向邸(練馬区立野町)	記録 更田邦彦
出席者(敬称略)プレ・フォロメンバー (順不同) 池野、松家、寺田、寺澤、石川 幹事: 寺阪、棚橋、更田			
ゲスト: 酒向、石田、佐藤、田中、黒田 その他参加者: 黒沢、田宮、菊池			
配布資料 なし			

議事録	備考
-----	----

<p>1. 建築学科の歩みを語る</p> <ul style="list-style-type: none">・ プレ・フォロメンバーにおいて、建築学科の歴史を共有する目的で、毎回5期ごとのゲストにお越しいただき、座談会形式でお話しいただくという企画を行ってきたが、今回がその5回目となる。 <p>今回は、21～25期のゲストスピーカーをお呼びして、ムサビの建築学科でどのような学生時代を過ごしたのか、また、その後どのような進路を進まれたかなどのお話をうかがった。</p> <p>ゲストスピーカーは下記の方々</p> <p>21期: 酒向昇さん 22期: 石田摩美子さん 23期: 佐藤恒一さん 24期: 田中行さん 25期: 黒田潤三さん</p> <ul style="list-style-type: none">・ 21期: 酒向昇さん<ul style="list-style-type: none">・ 1年生の芸術祭で模擬店「おかめ」を制作したが、自分たちで大きなものを作れたことがいい経験になった。・ 「建築研究会」では、東大の五月祭に参加して、1ブースを借りてインスタレーションを作ったが、他大学の学生と仲良くなれ	
---	--

たのが良かった。しかし、その時勝負する相手は外（学外）だと思った。

- ・翌年の芸術祭では、通称「シベリア」を借切って、油絵の学生とインスタレーションを作った。

- ・先輩の卒制に刺激を受け、自分の制作にも取り組んだ。

- ・大学院時には軍艦島の見学に行ったが、島でバーベキューをやったことも楽しい思い出である。

- ・時代がバブル期だったため、アルバイトの待遇も良く、学生時代全般を幸せに過ごすことができた。

- ・ 22 期：石田摩美子さん

- ・時代がバブルであったし、周りの学生が派手で勢いがすごかったため、現役で入った私は学校を怖く感じていた。

- ・バイトには良く行っていて、設計事務所での模型作りは技術が身に付くし楽しかった。

- ・源先生の構法の授業は面白かったし、建築言語も学べた。

- ・バナキュラーゼミに参加して、工場などを見に行っていた。

- ・竹山先生からは、要所を教わっていた。

- ・卒業後は、レーモンド事務所で8年ほど修行して、その後坂茂事務所で15年ほど働いた。

- ・独立して、羽根木神社の社務所、東京国立博物館のミュージアムショップなどを手がけ、現在は福島の教会の再建をワークショップを開催しながら進めていて、今では設計活動を楽しんでいる。

- ・ 23 期：佐藤恒一さん

- ・子供の頃からテニスをやっていたので、大学に入ったらテニス部に入るつもりだった。

- ・テニス部は建築学科と同じ年に創部され、去年50周年を行った。

- ・当時は、クレークコートだったので、コート整備が大変だった。

- ・夏合宿の最後の日には、毎年仮装してテニスをするのが伝統に

なっており、合宿所にミシンを持ち込んで作り込んでいた。

・ゼミの1番人気は竹山ゼミ、2番目は保坂ゼミだったが、私は長尾ゼミを選んだ。

・在学中、バブルという背景は感じていなかった。

・卒業後、20代は飛鳥建設で主に土木プロジェクトに関わり、30代では京急建設で鉄道と開発関係の仕事を経て、40代で現在のサンケイビルに入社し、デベロッパーの仕事に携わる中その工程・コスト・品質管理の仕事をしている。

・24期：田中行さん

・神戸出身なので高校時代に安藤忠雄の初期の建築を見ていて、建築に興味を持っていた。

・バブルを背景とした派手な環境が嫌だったので、ムサビに来て牧歌的な環境が心地良かった。

・立花先生に好きな建築のトレースを勧められ、いくつかトレースするうちに、設計を少しずつ理解できるようになった。

・岩淵先生に課題での表現を「いいね」と言われたことから、インテリアの分野に行くことに決めた。

・大学4年の後半から「スタジオ 80」にバイトに行き、卒業後5年間勤めたが、商業の世界はとにかく厳しくキツイ業界だった。しかしその5年間のお陰で現在がある。

・現在、デベロッパーの商品開発をしているのと同時にインテリアの仕事をしている。また、それとは別にプロダクトデザインもしている。

・プロダクトは、水引を使ったワインボトル入れ、曲げワッパの弁当箱・カップ、ガラスの調味料入れなど。

・25期：黒田潤三さん

・1年生時は昭和から平成に変わった年（バブル）。2年生時は芸祭が大規模イベント化していた。

・デザインの潮流はポストモダンで、3年のときに竹山先生のフェリーターミナルの現場に連れて行ってくれた。

- ・就職先には、ゼネコンの美大卒というものがあつた。
- ・「篠原スクール」に興味があつたので、武田光史さんの事務所にお世話になっていた。その後東工大の坂本先生のところにポートフォリオを持っていったところ、研究生（幕張の集合住宅のスタッフ）として入ることになり4年間在籍した。
- ・研究室の皆は、夜11時ごろまでは実施設計をするが、それ以降は自分の好きなこと（コンペなど）をしていて、自分はアートをやるようになっていた。
- ・微分・積分をキーワードにスポンジアートを作り出し、現代アートで取上げてもらった。
- ・時代背景が、バブルから携帯電話に移ってきて、個人からユニットで発信するようになった。
- ・建築を単体ではなく、風景の中でどう見えるかということと言語や論理を使って、客観的に捉えようとしていた。
- ・最近、産婦人科クリニックを通してコミュニティデザインを考えている。さらに、産婦人科で終わるのではなく、周辺と共同したコミュニティを作れないかということも考えている。

・座談会

- ・黒田さんはじめこの世代の方々、ムサビとその後とか建築とデザインとかの境目があまり感じられない。（更田）
- ・我々も含め田中さんの世代も、建築にこだわらないということはあると思う。「日月シンポ」に出られた方もかなり多様な活動をしている。（黒田）
- ・全体的にいろんな分野の人たちが集まってアトリエを作るような傾向にあるようにも思う。（松家）
- ・私たちの頃から仕掛けないと仕事がないジェネレーションになってきたのだと思う。（田中）
- ・別な話だが、ムサビと東工大は授業提携をすることになった。（松家）
- ・バブルのときに学べたというのはすばらしかったと思う。我々のときもバカらしくて就職など考える人間はいなかった。しか

し、その後バブルがはじけた時に自由な発想でやり通したことが今につながっているように思う。(池野)

・工学部にはない、いろんな糸口がムサビの中にはあったということなのではないか。(松家)

・今ほど情報が入ってくる時代でもなかったので、漠然とした環境の中で前に踏み出せたのかもしれない。(黒田)

・次回は、ポストバブル時代の世代ということになりそうです。(田宮)